

鋼管柱き裂点検システム CRVICE® (クレビス)

特許出願済

NETIS登録済 (QS-230018-A)

『鋼材表面のメッキや塗装の除去を行わず
き裂を検出する事が出来る非破壊検査システムです。』



- 目視困難なき裂も検出し、その深さを推定します。
- 今までのき裂検出方法では金属表面のコーティングを除去する必要がありましたが、本システムでは不要です。
- 防水・防塵仕様です。
- 小型軽量で操作性に優れています。



2種類の検査方法で 微小なき裂も検出

- ① 漏洩磁束法により、母材部の目視困難なき裂も検出し、その深さを推定することができます。
- ② 渦電流法により、溶接部のき裂も検出することが可能です。

鋼管柱き裂点検システムを 使用するメリット

- 従来なき裂検出方法では、金属表面のコーティングを除去する必要がありましたが、本システムでは不要です。
- 軽量・小型で可搬性に優れ、身に着けた状態でスピーディに点検を行えます。
- 複雑な操作が無く、専門知識不要で簡単にき裂の点検が可能です。

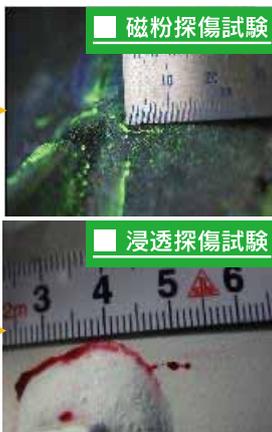
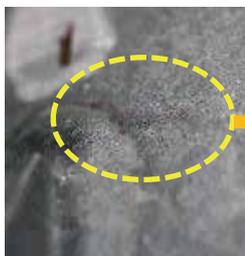
橋梁などの鋼構造物の 点検にも適応可能

- 本システムは、鋼管柱に限らず、橋梁に使用されている鋼製部材（床版・支承・溶接部など）に対する非破壊検査にも適応可能です。
- 塗膜下の微細なき裂の検出が可能のため、母材に影響することなく検査が行えます。
- 可搬性に優れており、点検足場など狭小部での持運びに適しています。

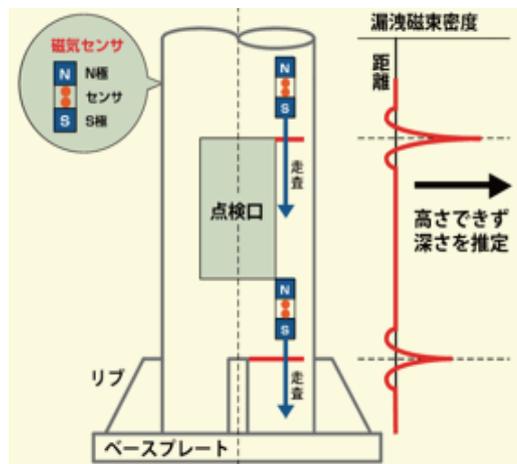
鋼管柱き裂点検システム CRVICE®(クレビス)

従来の非破壊検査方法

目視点検（発見が容易ではない）



システムでの点検イメージ（漏洩磁束法）



特徴

対象表面のコーティング除去が不要です。

漏洩磁束法・渦電流法を採用し、点検時に対象表面の塗膜処理が不要です。試液・薬剤なども不要で、対象に影響を与えずにき裂の点検が可能です。

軽量・小型で可搬性に優れています。

本体サイズは17×12センチと小さく重量は約1kgと軽いため、点検作業の妨げになりません。表示用スマートフォンは本体に装着することも可能で、必要に応じて取り外し、画面を見ながら点検を行えます。



コンパクトなサイズ



画面を見ながら点検も可能

橋梁等の鋼構造物への適用も可能

鋼管柱だけではなく、橋梁などの鋼構造物への適用が可能です。簡単操作で専門知識が必要無く、き裂点検が行えます。塗膜を剥がさず点検できるため、磁粉探傷試験実施前のスクリーニングとしても活用いただけます。



床版などの塗膜上から点検が可能



支承など、狭い場所での点検も可能

「鋼管柱き裂点検システム」は（株）ネクスコエンジニアリング北海道と（株）カナデビアエンジニアリングの共同開発品です。

株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条4丁目3-20
TEL：011-842-3200
<https://e-nexco-engiho.co.jp>
E-mail eng.ho@e-nexco.co.jp